

1) - 5 巨大津波による大規模火災の解明と予測手法の構築

研究期間（平成 24～26 年度）

〔担当者〕 岩見達也

東日本大震災では津波をきっかけとして発生した火災が、津波が到達しなかった市街地にも延焼し、被害を助長したことが明らかとなった。今後、東海・東南海・南海における三連動地震等においては、さらに巨大な津波が予想されており、これらの地域で広域にわたる大規模火災が発生した際の被害・損失は計り知れない。巨大津波に伴う大規模火災の解明は、緊急を要する課題のひとつである。本研究では、巨大津波による大規模火災のメカニズムを明らかにし、その結果に基づいて津波火災の危険を予測するための手法を構築することを目的とする。

平成 26 年度は、海上瓦礫の燃焼性状を把握するため、陸上、水上及び水上で重油が流出した場合の 3 種の設置条件について風速をパラメータとして燃焼実験を実施し、海上瓦礫の燃焼性状に関する基礎的データを取得するとともに、この実験成果に基づいて瓦礫火災に関するシミュレーションモデルの構築を行った。